



Sun A. Kaken

**第112期(2021年3月期)
第2四半期 決算説明会**

株式会社 サンエー化研

2020年12月3日

目次

1. 第112期(2021年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

3. 第112期(2021年3月期)業績予想と今後の施策

- 通期業績予想
- セグメント別の業績予想(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- 関係会社紹介
- 基本情報

目次

1. 第112期(2021年3月期)第2四半期決算概要

- 連結貸借対照表
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第112期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2019年3月期末 (第110期末)	2020年3月期末 (第111期末)	2021年3月期末 (第112期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	20,028	20,075	18,307	▲1,768	▲8.8%
現金預金	5,380	6,341	5,513	▲828	▲13.1%
売上債権	10,974	10,341	9,669	▲671	▲6.5%
棚卸資産	3,338	3,274	3,089	▲184	▲5.6%
その他	334	117	33	▲83	▲71.2%
固定資産	13,757	11,552	11,787	235	2.0%
有形固定資産	7,528	6,520	6,488	▲31	▲0.5%
無形固定資産	32	27	21	▲6	▲23.3%
投資その他の資産	6,196	5,004	5,277	273	5.5%
資産合計	33,786	31,627	30,094	▲1,533	▲4.8%

※百万円未満切捨て

第112期第2四半期決算概要: 連結貸借対照表(負債・純資産の部)

(単位: 百万円)

科 目	2019年3月期末 (第110期末)	2020年3月期末 (第111期末)	2021年3月期末 (第112期) 第2四半期末	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,060	12,303	10,633	▲1,670	▲13.6%
仕入債務	6,898	6,148	5,386	▲761	▲12.4%
短期借入金	3,280	4,120	3,180	▲940	▲22.8%
その他	1,881	2,034	2,066	31	1.6%
固定負債	2,345	1,982	1,867	▲115	▲5.8%
長期借入金	715	355	134	▲221	▲62.2%
その他	1,629	1,627	1,733	105	6.5%
負債合計	14,405	14,286	12,500	▲1,785	▲12.5%
純資産	19,380	17,341	17,593	252	1.5%
負債及び純資産合計	33,786	31,627	30,094	▲1,533	▲4.8%

※百万円未満切捨て

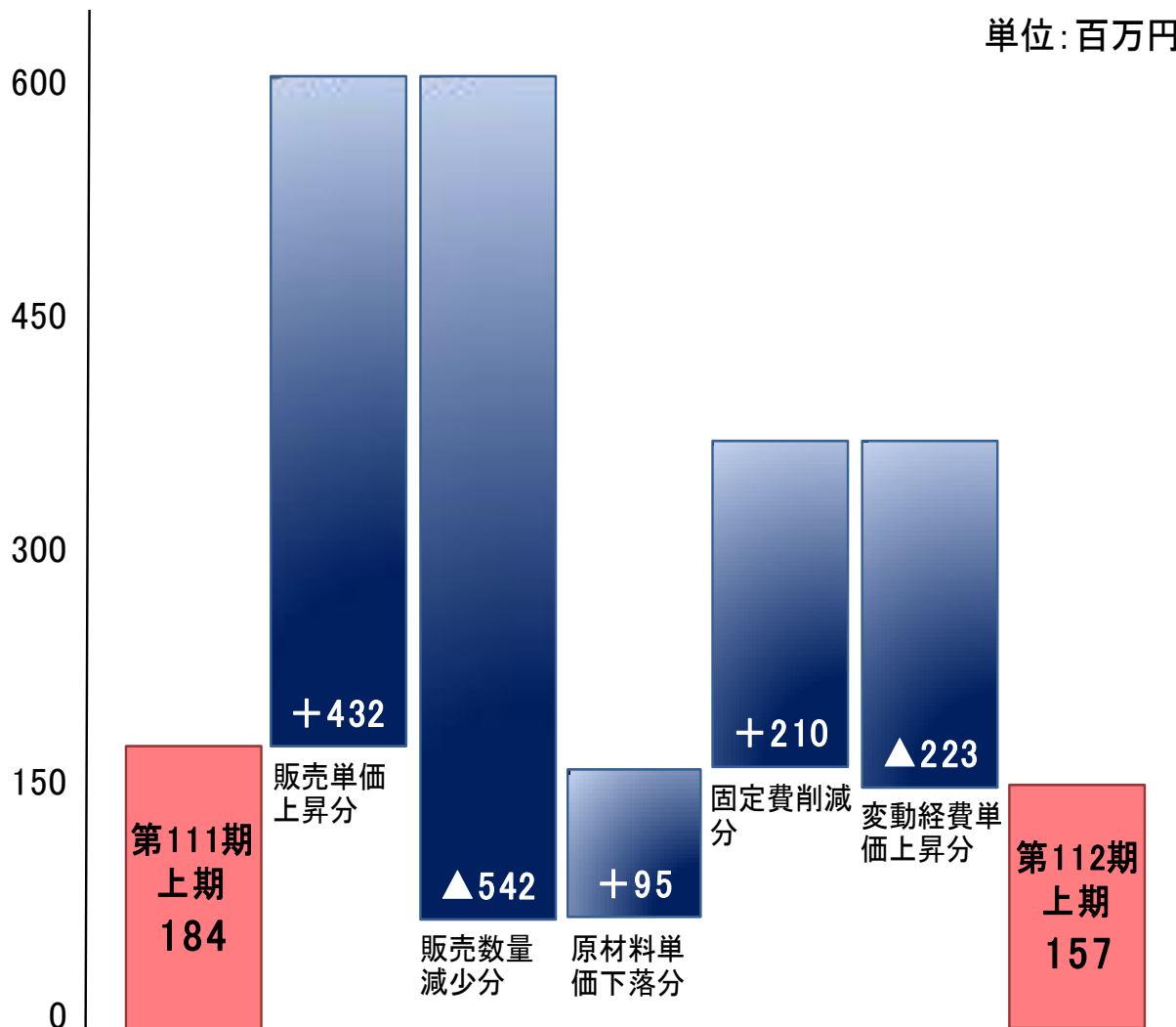
第112期第2四半期決算概要: 連結損益計算書

(単位: 百万円)

科目	2019年3月期 (第110期) 第2四半期	2020年3月期 (第111期) 第2四半期	2021年3月期 (第112期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	15,824	15,297	13,494	▲1,802	▲11.8%
売上原価	14,044	13,592	11,924	▲1,667	▲12.3%
売上総利益	1,780	1,705	1,570	▲135	▲7.9%
販売費及び一般管理費	1,554	1,521	1,413	▲108	▲7.1%
営業利益	226	184	156	▲27	▲14.7%
営業外収益	181	136	128	▲7	▲5.6%
営業外費用	131	114	40	▲73	▲64.8%
経常利益	276	206	245	39	18.9%
特別利益	—	—	—	—	—
特別損失	—	—	4	4	—
税金等調整前四半期純利益	276	206	241	34	16.9%
税金費用他	102	85	69	▲16	▲19.2%
親会社株主に帰属する四半期純利益	173	120	172	51	42.6%

※百万円未満切捨て

第112期第2四半期決算概要：営業利益の要因分解



販売面においては、全セグメントで販売数量が減少し、▲5億42百万円の減益要因となりました。一方、高価格帯の製品販売が比較的堅調で、平均販売単価が上昇し、+4億32百万円の増益要因となりました。

費用面においては、原材料価格の下落で+95百万円、前期末の掛川工場WEST減損処理に伴う償却費減少及び労務費その他固定費の削減で+2億10百万円がそれぞれ増益要因となりました。一方、数量減少に反して外注加工費等が増加したことから変動経費の平均単価が上昇し、▲2億23百万円の減益要因となりました。

その結果、営業利益は27百万円の減益となりました。

目次

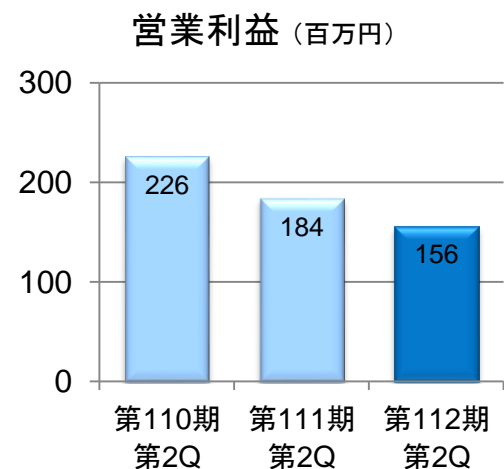
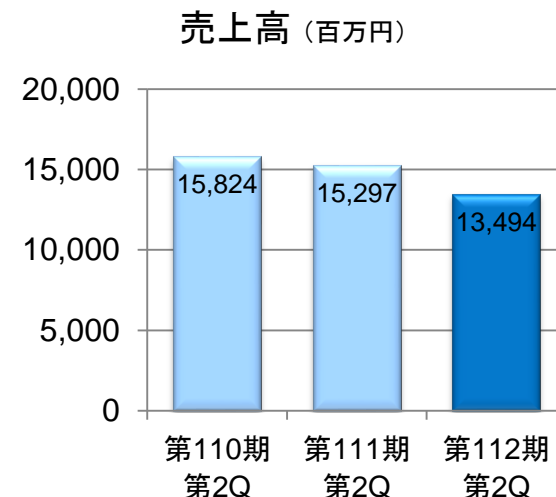
2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

各セグメントの概況: セグメント別業績内訳

(単位: 百万円)

科目/ セグメント	2019年3月期 (第110期) 第2四半期	2020年3月期 (第111期) 第2四半期	2021年3月期 (第112期) 第2四半期	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	15,824	15,297	13,494	▲1,802	▲11.8%
軽包装材料	6,680	6,144	5,894	▲250	▲4.1%
産業資材	3,332	3,573	3,239	▲333	▲9.3%
機能性材料	5,455	5,299	4,087	▲1,211	▲22.9%
その他	355	280	273	▲7	▲2.6%
営業利益	226	184	156	▲27	▲14.7%
軽包装材料	300	189	184	▲5	▲2.6%
産業資材	▲462	▲282	▲237	45	—
機能性材料	376	283	202	▲81	▲28.8%
その他	11	▲7	7	14	—



※百万円未満切捨て

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売



主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 精密機器製造業
- その他製造業

生産拠点

静岡工場



奈良工場



東邦樹脂工業



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

食品関連

第2Q売上高
3,022百万円



「レンジD○!」、「ポロソ」、清涼飲料用パウチなどが安定した売上を支える。

市場環境

- 同業400-500社程度
- 汎用品は競争厳しい

収益性・成長性

- コロナ禍で「レンジD○!」の需要拡大
- 業務用包材の需要回復に期待

医薬品・医療器具関連

第2Q売上高
1,080百万円



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い。「テクニフィルム」の拡販に期待。

市場環境

- 品質要求厳しく新規参入困難
- 市場は拡大傾向

収益性・成長性

- 高防湿医薬包材の需要拡大
- 高齢者増加により医療分野は成長期待

洗剤・トイレタリー関連

第2Q売上高
645百万円



詰替え用パウチの需要増に伴うニーズに対応。独自製品の開発・拡販に注力。

市場環境

- 詰替え用パウチの普及による需要拡大に期待

収益性・成長性

- 詰替え用パウチは多様化で競争厳しく
- 耐内容物包材の拡販に期待

精密機器関連その他

第2Q売上高
1,146百万円



エア緩衝材の用途開発による顧客開拓を図る。環境対応製品の開発に注力。

市場環境

- 一般包材は競争厳しい
- エア関連製品は競合少ない

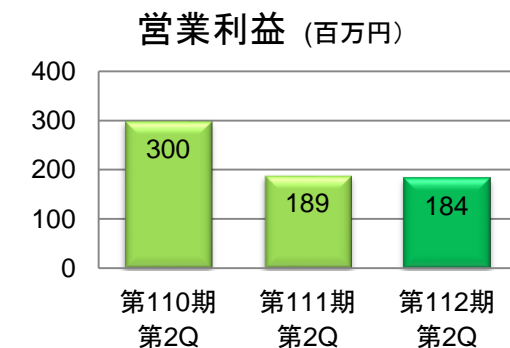
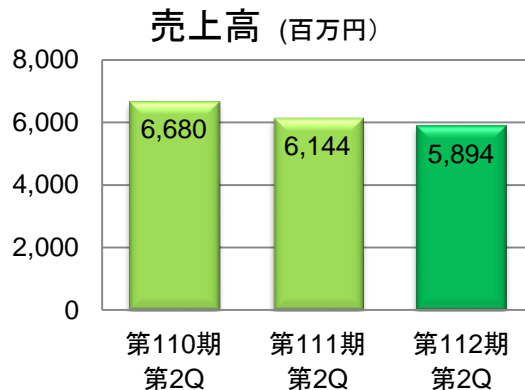
収益性・成長性

- 環境対応製品の開発ニーズが増加
- 主要顧客の使用量削減の影響は縮小

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（軽包装材料）

軽包装材料

- 売上高： 5,894 百万円（前年同期比 4.1% 減）
- 営業利益： 184 百万円（前年同期比 2.6% 減）



- 食品用包材は、電子レンジ対応包材「レンジD○！」が好調の反面、清涼飲料用パウチが低調で前年同期並み。
- 医薬品・医療用包材は、医療機関への外来患者数減少等の影響で受注が減少し、減収。
- 洗剤・トイレタリー用包材は、化粧品関連の不調が続くも、ハンドソープ、消毒液等の詰替え用が伸長し、増収。
- 精密機器その他の包材は、物流の停滞等によりエア緩衝材が低調。その他の包材も受注が減少し、減収。
- 平均販売単価上昇により収益性が改善するも、受注の減少を補えず、僅かに減益。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材セグメント

粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売



主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- プラスチック製品製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点

掛川工場WEST



袋井工場



東邦樹脂工業



シノムラ化学工業



(2020年10月より)

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

ラミネート紙

第2Q売上高
732百万円



主に粘着テープ用基材（紙ベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 重包装袋：約900百万m²/年
- テープ用：約420百万m²/年

収益性・成長性

- 市場は飽和状態
- クラフトテープの国内生産量は横ばい

ラミネート布・ 布粘着テープ

第2Q売上高
982百万円



主に粘着テープ用基材（布・樹脂クロスベース）をテープメーカーに販売。

市場規模（推定）

- 約200百万m²/年

収益性・成長性

- 海外品流入による低価格化が進行
- 国内競合メーカー少なく、シェア安定

剥離紙

第2Q売上高
1,524百万円



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約2,700百万m²/年

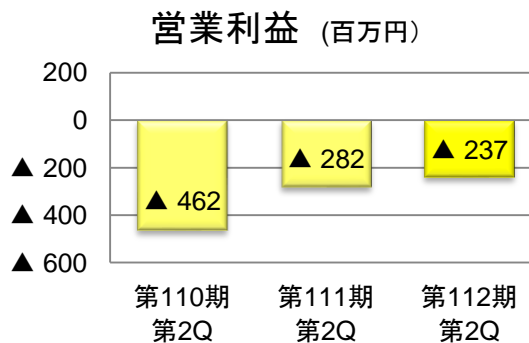
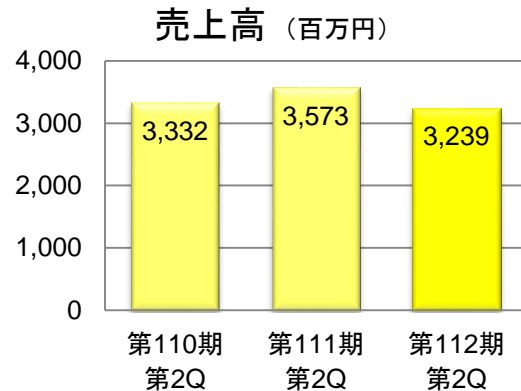
収益性・成長性

- 一般用途は競争激化
- FPC用工程紙、炭素繊維プリプレグ用工程紙の開発・拡販に注力

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（産業資材）

産業資材

- 売上高： 3,239 百万円（前年同期比 9.3% 減）
- 営業利益： ▲237 百万円（前期実績 ▲282 百万円）



- 粘着テープ基材については、物流が低調で梱包用テープの需要が減少。自然災害に備えて増加していた養生用テープの需要も一服したことから受注が減少し、減収。
- 剥離紙については、新型コロナの影響で自動車部品関連やPOPラベル関連の受注減少。FPC（フレキシブルプリント基板）用工程紙については、夏以降、受注が回復するも、第1四半期の不振が響き、減収。
- 減収に伴い収益は低下するも、前期末に行った掛川工場WESTの減損による償却負担の軽減や原材料コスト低減により、営業損失は縮小。

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売



主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点

掛川工場



袋井工場



奈良工場



長鼎電子材料 (蘇州)有限公司



各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

サニテクト

第2Q売上高
940百万円



最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる。

市場規模（推定）

- 約300百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 品種により他社製2層タイプとも競合
- 一般用途では、ユーザーの海外移転が進み、国内市場は縮小傾向

PAC

第2Q売上高
641百万円



2層押し出しによる成膜化によって生産され、低コスト性に優れる。

市場規模（推定）

- 約900百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

- 偏光板用は一定の需要が見込めるも、品質要求は高度化
- 強粘着タイプの拡販が課題

SAT・ 粘着加工品

第2Q売上高
2,505百万円



PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される。

市場規模（推定）

- 約450百万m²/年
（光学用途）

収益性・成長性

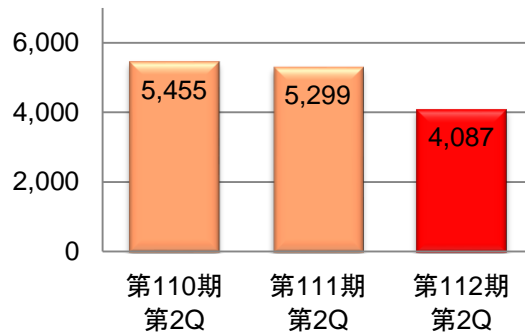
- 4K・8K対応に向け、長鼎電子材料を含むグループ全体の品質レベル向上が課題
- スマートフォン関連は受注量の変動大

各セグメントの概況：事業の内容及び概況（機能性材料）

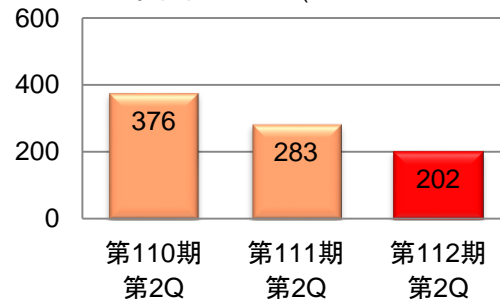
機能性材料

- 売上高： 4,087 百万円（前年同期比 22.9% 減）
- 営業利益： 202 百万円（前年同期比 28.8% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 「サニテクト」については、一般用途の受注は減少したが、テレワーク導入企業の増加により、パソコン向けの受注が増加。PET基材のNSタイプも伸長し、増収。
- 「PAC」及び「SAT」については、新型コロナウイルスの影響で、偏光板用やスマートフォン関連の受注が減少。需要の回復鈍く、減収。
- 「サニテクト」の増収に対し、「PAC」及び「SAT」の減収額が大きく、減益となるも、原材料コスト低減及び経費削減により一定の利益を確保。

目 次

3. 第112期(2021年3月期)業績予想と今後の施策

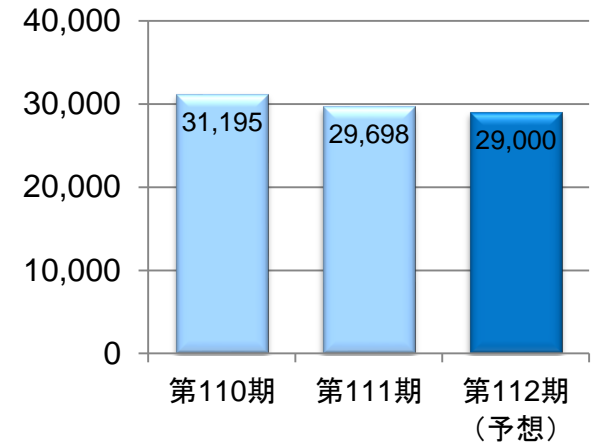
- 通期業績予想
- セグメント別の業績予想
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 利益率の推移と今後の施策
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第112期業績予想と今後の施策：通期業績予想

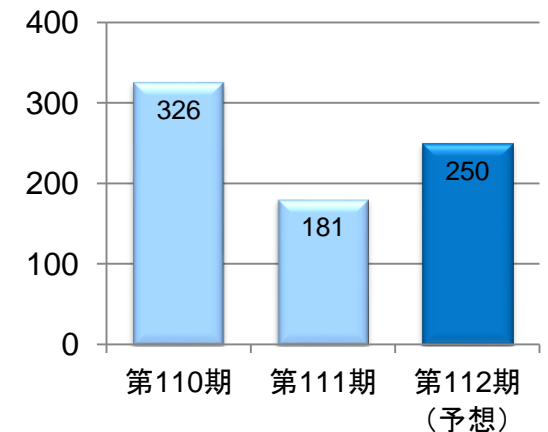
(単位：百万円)

科目／セグメント	2019年3月期 (第110期)	2020年3月期 (第111期)	2021年3月期 (第112期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	31,195	29,698	29,000	▲698	▲2.4%
軽包装材料	12,632	11,760	11,700	▲60	▲0.5%
産業資材	7,045	7,300	8,700	1,399	19.2%
機能性材料	10,873	10,040	8,100	▲1,940	▲19.3%
その他	643	596	500	▲96	▲16.2%
営業利益	326	181	250	68	37.8%
経常利益	587	▲161	400	561	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	185	▲1,338	280	1,618	—

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



※百万円未満切捨て

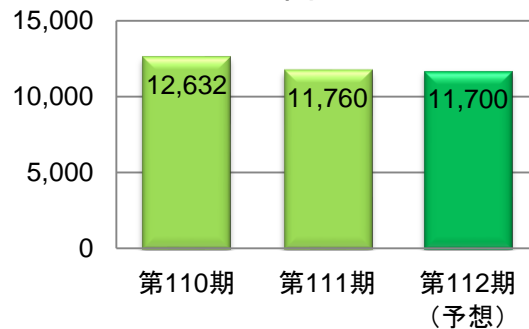
第112期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（軽包装材料）

軽包装材料

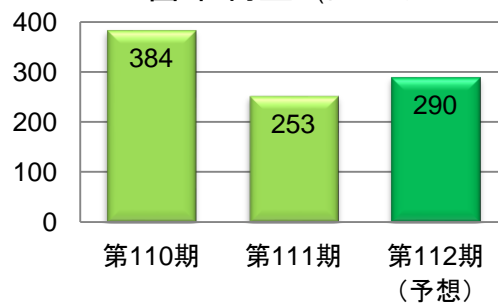
【第112期業績予想】

- 売上高：11,700 百万円（前期比 0.5% 減）
- 営業利益：290 百万円（前期比 14.2% 増）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- 食品用包材については、新型コロナの影響で「レンジD
o！」の受注増が見込まれるも、業務用包材の回復が鈍く、売上は微増に留まる見通し。
- 新型コロナの影響で、精密機器その他の包材と、医薬品・医療用包材については減収を見込むも、洗剤・トイレタリー用包材は増収の見通し。軽包装材料全体では前期並みの売上を見込む。
- 収益性の高い製袋品の販売比率上昇と生産合理化により、増益を見込む。

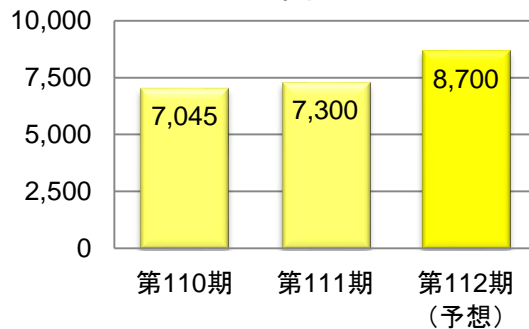
第112期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（産業資材）

産業資材

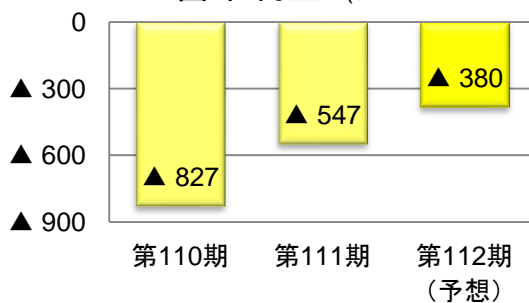
【第112期業績予想】

- 売上高： 8,700 百万円（前期比 19.2% 増）
- 営業利益：▲380 百万円（前期実績 ▲547百万円）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



- テープ用基材については、下期には需要回復が見込まれるが、上期の落ち込みをカバーできず減収の見通し。
- 剥離紙については、自動車関連及びFPC用工程紙が持ち直し、回復の見通し。
- 下期よりシノムラ化学工業の連結取り込みにより産業資材全体で増収を見込む。
- 掛川工場WEST減損に伴う償却費の減少及び原材料コストの低減により営業損失縮小を見込む。

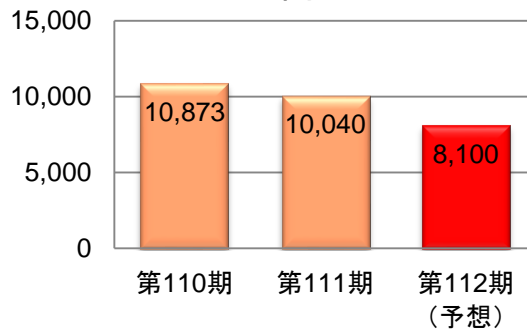
第112期業績予想と今後の施策：セグメント別の業績予想（機能性材料）

機能性材料

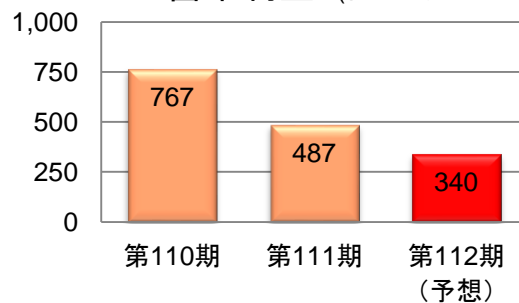
【第112期業績予想】

- 売上高： 8,100 百万円（前期比 19.3% 減）
- 営業利益： 340 百万円（前期比 30.2% 減）

売上高（百万円）



営業利益（百万円）

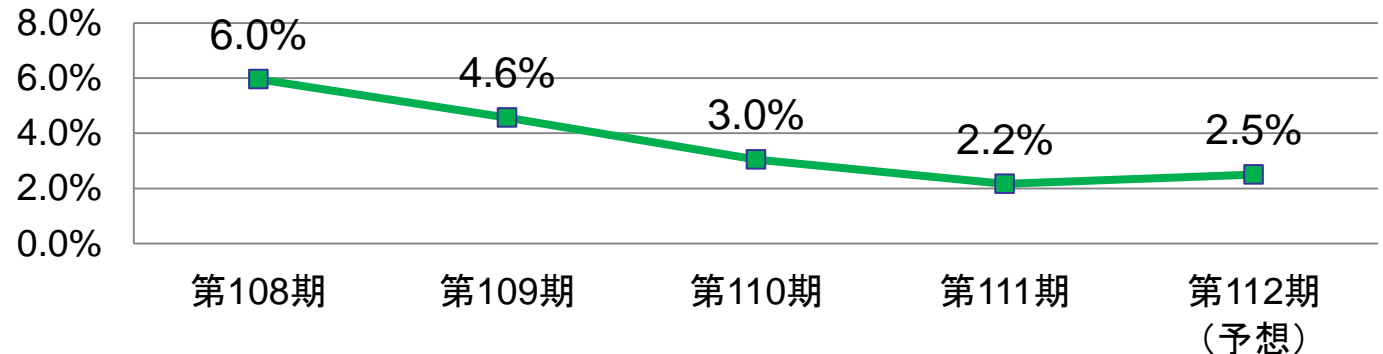


- 「サニテクト」は、光学用途が堅調。NSタイプの回復も見られ、通期で増収の見込み。
- テレビの需要増により偏光板用途の表面保護フィルムは下期より回復の見通し。一方、スマートフォン関連の需要回復は鈍く、競争も激化。結果として、「PAC」及び「SAT」は減収の見込み。
- 比較的収益性の高いスマートフォン関連の受注減少に競争激化が加わり、収益低下。原材料コスト低減を見込むも減益の見通し。

第112期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（軽包装材料）

軽包装材料

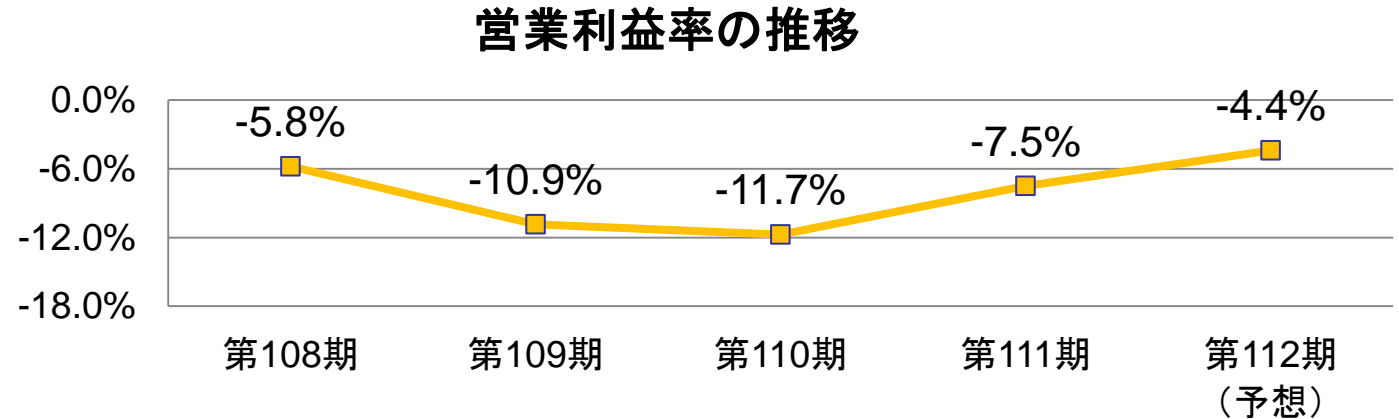
営業利益率の推移



- 市場ニーズと環境の変化に対応し、安定した収益を上げうる体質づくりを進める
- 「レンジD_o！」については、製袋機増設による生産能力の拡大と食品メーカーとの協業による新たなニーズの掘り起こしにより、売上拡大を目指す。
- 耐内容物包材やエア緩衝材については、新たな用途開発や顧客開拓を推進するとともに、既存製品の改良・改善を進め、売上回復に努める。
- 紙、生分解性プラスチック、バイオマスプラスチックを主原料とする環境対応包材の開発やリサイクルしやすいモノマテリアル(単一素材)化に取り組む。

第112期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（産業資材）

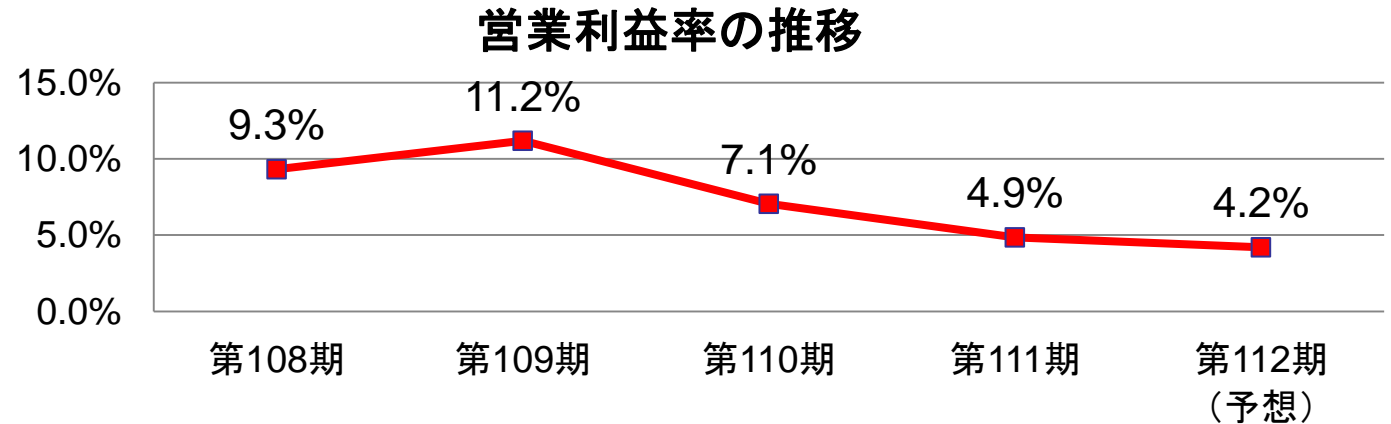
産業資材



- 高収益分野への展開と生産体制の再構築によって、収益構造の転換を図る
- 当社袋井工場、掛川工場WEST及びシノムラ化学工業との間で、最適な生産体制を構築し、品質、納期面で顧客満足の向上に努め、売上拡大を目指す。
- 収益性の高いIT関連、炭素繊維関連、メディカル分野への製品展開を推進するとともに、シノムラ化学工業とのシナジー創出により、早期黒字化を果たす。
- 包装資材の脱プラスチック化の流れが梱包用テープにも波及。離型材の目止め用途としてバイオマスプラスチックを使用した製品開発を推進する。

第112期業績予想と今後の施策：利益率の推移と今後の施策（機能性材料）

機能性材料



- 技術・品質・顧客対応の強化によって、安定的に高収益を維持する
- 顧客密着型の開発態勢を継続。コロナ禍においても、顧客との協業関係を可能な限り維持し、先端分野の技術を研鑽するとともに将来の受注機会を確保する。
- テレビやスマートフォンの高画質化に伴って高度化する品質要求に対応しつつ、V A・VEの手法を駆使し、コストダウンを図る。
- 抗菌・抗ウイルス性を付加した新製品「バイプロテープ」に注力。コロナ禍のニーズに合致した製品として幅広い顧客層に訴求し、新たな分野で収益確保を図る。

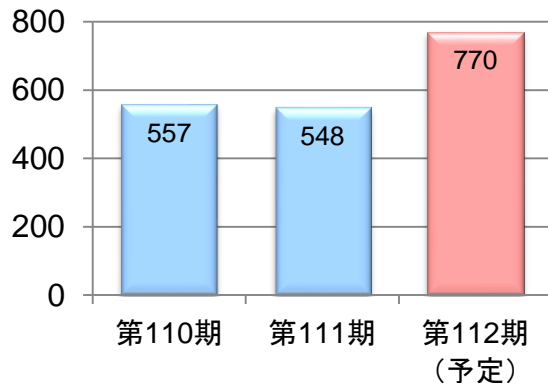
第112期業績予想と今後の施策：設備投資及び研究開発費

(単位：百万円)

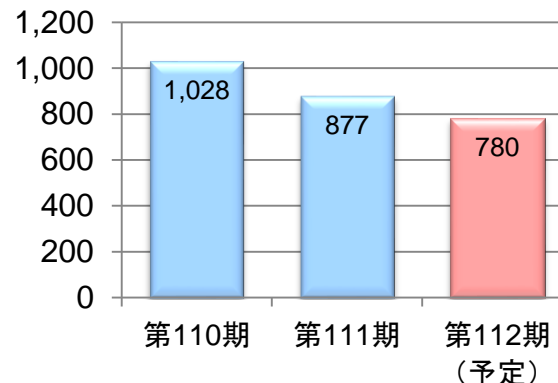
科目	2019年3月期 (第110期)	2020年3月期 (第111期)	2021年3月期 (第112期) (予定)	備考
設備投資額	557	548	770	製袋機増設、各種設備、試験機、サーバー等の更新、工場建屋の改築
減価償却費	1,028	877	780	掛川工場WEST償却費減少
研究開発費	430	442	440	コロナ禍においても、前期並みの研究開発活動を継続

※設備投資額は無形固定資産を含まず ※百万円未満切捨て

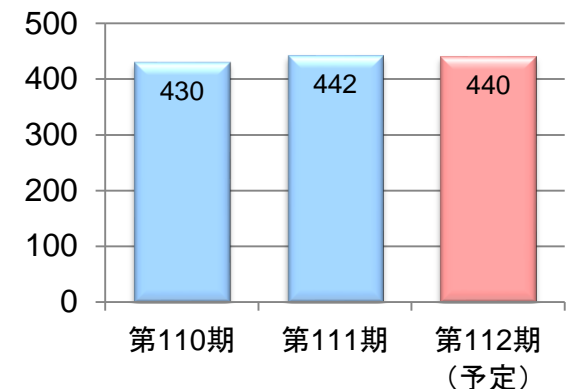
設備投資額 (百万円)



減価償却費 (百万円)



研究開発費 (百万円)



目 次

4. 参考情報

- 関係会社紹介
- 基本情報

参考情報: 関係会社紹介(1)

■ シノムラ化学工業株式会社

2020年10月1日付、(株)王子機能材事業推進センターより、同社子会社であるシノムラ化学工業(株)の株式を取得したことにより、子会社化。

所在地	静岡県袋井市国本291番地		
代表者	代表取締役社長 大橋宏行		
事業内容	1. 紙及び紙加工製品の製造販売並びに輸出入 2. プラスチック原料及びプラスチック加工製品の製造販売並びに輸出入 3. 産業用繊維の加工製造販売並びに輸出入 4. 前各号に関連する業務		
資本金	40百万円		
設立年月日	1972年11月2日		
株主及び 持株比率	株式会社サンエー化研	51.0%	
	東ソー株式会社	40.0%	
	株式会社王子機能材事業推進センター	9.0%	

参考情報: 関係会社紹介(2)

■ シノムラ化学工業(株)の財政状態及び経営成績

決算期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
純資産	2,103百万円	2,202百万円	2,205百万円
総資産	4,401百万円	4,442百万円	4,080百万円
売上高	4,456百万円	4,539百万円	4,241百万円
経常利益	167百万円	118百万円	72百万円



■ 子会社化の狙いと今後の戦略

- 産業資材セグメントの事業規模を拡大するとともに技術の相互研鑽を図り、収益性向上並びに競争力強化等のシナジー創出によって当事業セグメントの持続的成長を実現することが狙い。
- 今後数年間をかけて、既存工場との間で設備の統廃合と使用原材料の集約を進め、コスト低減を図りつつ、それぞれの得意分野において、グループ各社が生産面・販売面で補完し合い、産業資材セグメントの効率性、収益性を改善する。

参考情報: 基本情報

2020年9月30日現在

商 号
 証 券 コ ー ド
 設 立
 代 表 者
 事 業 所

株式会社 サンエー化研
 4234 (JASDAQ スタンダード)
 1942年9月 (昭和17年9月)
 代表取締役社長 山本 明広
 本 社 : 東京都中央区日本橋本町1-7-4
 営 業 拠 点 : 東京、大阪、名古屋
 【海外】台湾、中国上海 (連結子会社 灿櫻(上海)商貿)
 生 産 拠 点 : 静岡、袋井、掛川(2カ所)、奈良
 野木 (連結子会社 東邦樹脂工業(株) 本社工場)
 【海外】中国蘇州 (持分法適用会社 長鼎電子材料)

資 本 金
 事 業 内 容
 連 結 従 業 員 数
 決 算 期

研究開発拠点 : 掛川
 21億76百万円
 高付加価値プラスチックフィルム・包材の製造・販売
 655名
 3月31日

業績予想は、本資料の発表日現在(12月3日)において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問い合わせ先

株式会社 サンエー化研
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719

E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp